

たとえ安く買ったとしても、多額の維持費と駐車場所などに特別な配慮が必要なクルマ。フェラーリをそう考えている人が多いようだ。それが2+2のモンディアルであっても……。本当のところはどうなのよ？

ということで、3.2を日常生活に使っているオーナーに話を聞いてみました。

久間栄一さん(きゅうま・えいいち)の愛車は2年ほど前に手に入れた86年式のモンディアル3.2だ。購入時の走行距離は3.6万km、価格は諸費用込みで約430万円だった。しばらくの間、コカコーラのペットボトルを小脇に抱えながら洗車中の彼と立ち話をしていたのだが、想像していたフェラーリ・オーナーとは雰囲気がちよっと違う。気負いみたいなものが微塵も感じられないのである。そう、話しやすい普通の人なのだ。

「せっかくの晴れ舞台ですから、久しぶりに洗っておこうと思ひまして。えっ、普段ですか？これ1台で生活しているんですよ。近所のスーパーマーケットに行ったりしてます。クーラーもよく効きますし、慣れてしまえばけっこう快適です」

クルマ遍歴を訊ねると、いすゞ・ジェミニからスタートして、5台ほどの国産車を乗り継ぎ、VWのカルマンギア、プジョー205GTI、アルファ・ロメオ75、147ツインスパークと続いている。

「VWから入ってプジョーに乗って、そしてアルファに行く。もう、お約束になっているクルマ好きの輸入車コースでしょ(笑)。でも、そこから先は、ドイツ/イタリア/フランス車派に分かれていくのでしょうか。75と147に乗って、僕はイタ車と愛称がいいと感じたわけです。だから、147の次はフェラーリになりました」

彼のクルマ選びの基準は、小学生時代にスーパーカーの写真を見て感動していた頃と変わらないという。佇まいに普通とは違うオーラを感じるクルマ、つまり直感的に「すごい」とか「カッコいい」と思えるクルマに弱くと話す。で、当時所有していた147のメンテナンスを行なうために、いつも

のショップを訪ねたのが、このモンディアル3.2との出会いとなった。

背中を押したのはエグゾーストノートと親父

「実はインターネットで、フェラーリのストックがあるのを知っていたんですよ。点検をお願いするついでに跳ね馬の嘶きを聞かせてもらおうと、クルマ好きの親父といっしょに出かけたわけです。フェラーリに触れられる機会なんてそうあるものではないですから。お店の人にプリッピングしても

らったら、二人とも言葉が失うほど感動してしまっ。すると、男なら買え！と親父が僕を煽るんです。銀行は俺が紹介するぞと。結局、60回払いのローンですよ(笑)」

そして、フェラーリとの蜜月が始まる。ところが、購入から半年ほど経った頃、彼のモンディアルを大きなトラブルが襲う。なんと、ECU(コンピューターのロム)の不具合で不動となったのである。純正品はすでに欠品となっていて、リビルト品も国内にはなかったらしい。英国のECUメーカーが修理を引き受けてくれたものの、半年待ったが

Life with a Ferrari

モンディアルって、日常使いできますか？

結局はだめで、最終的にショップを通じて“モーテック”に製造してもらったという。

「テスト走行を重ねながら、ECUに繋いだノートパソコンを使って“モーテック”のエンジニアが細かい入力を行なっていくんですよ。80年代のクルマも電気系はコンピューター制御なんですよ。修理代は約120万円でした。見積書を見た時はさすがの僕もシビレましたよ。で、支払いはもちろん分割にしてもらいました(笑)」

なんと、車両と同時に修理代のローンも組んだのである。これぞ男だ。ただし、それ以降の故

障は、セルモーターの不具合、クーラント漏れなど、消耗品の経年劣化が原因となっている些細なものばかりだ。

「セルやウォーターラインのホースなどは、フェラーリだけに起きるトラブルではないですよ。20年以上も前のクルマなのですから、しかたないですよ。とはいうものの、ECUはどうかと思ひますけれどね(笑)。まっ、アルファ75に比べれば維持していくのは楽ですかね」

それにしても、ECUのトラブルさえ起きていなければ、2年の間にかかった修理代は20万円にも満

たない計算になる。普通の会社員の方でも、問題なく維持していける金額なのではないだろうか。

「年間2万km以上走るといふ方だと、それなりのメンテナンス・コストがかかってくるでしょうが、僕みたいに5000kmくらいしか走らない人であれば充分やっていると申します。モンディアルには後席もありますから、1台態勢でもOKでしょう。車高がそれほど低くないし、車幅も手ごろですから、コインパーキングや立体駐車場にも止められて使い勝手もいいですね」

彼は、程度のいい個体ならば、会社勤めの方にもぜひ購入を勧めたいと話す。

「フェラーリって、人生のなかで乗れるタイミングが限られているクルマだと思うんですよ。中学生～高校生の子供が2人以上いる方は後席のスペースの点で無理でしょうし、あまり若すぎても予算的な問題が出てくるじゃないですか。だから、乗れる時にとりあえず買って置く、これですよ。買ってしまえば後悔させないクルマです。リセールバリューが高いですから、手放さなくてはならない状況になったとしても、損はしないでしょう」

ところで、フェラーリと生活をともにして、久間さんのクルマ感はどう変わったのだろうか。

「そうでもないです。欲しかった玩具を手に入れたという感じですよ。でも、クルマを操る喜びとか快樂など、まったく新しい未知の感覚を発見できたと思います。最近ではドライバーにそれほどのスピード感や恐怖心を与えないまま、とんでもない速度域に達しているクルマが多いじゃないですか。古いフェラーリは、スピード感や加速感をダイレクトに伝えてきますので、それが逆に新鮮です。スペックではなく、感覚的にスゴイって感じさせるシンプルなクルマこそが本当のスポーツカーなんだと思ひ知らされています」

普通の会社員の方も、いまがチャンスと思ったら、とりあえずフェラーリの世界へ飛び込んでみてはいかがだろうか。久間さんのように、なんとなく先輩たちはけっこう多いのである。

Text: 野田義彦/Photo: 丸山博人



久間栄一さんの所有する3.2は2世代目のモンディアルとなる328と同じエンジンを搭載するモデル。4座のためホイールベースは328より30cm長い。ミッドに横置きされる3.2ℓ V8は270ps/7000rpm、31.0mkg/5500rpmの強大なパワーとトルクを誇る。ご覧のように保管場所は屋根のない駐車場。そのため普段はボディカバーを被せてある。まったく問題はないが、雨の日に乗るのはさすがに面倒とのこと。